

Lyric Colors

vol.14

リリック カラーズ

2024
9.25発行
TAKE
FREE

あなたの毎日に
芸術文化の
いろどりを――。

特集

気軽にオペラ! 豪華にオペラ!!
傑作オペラの名曲をあなたに…
ナビゲーター 朝岡 聡

若き巨匠 アンドレア・バッティストーニ が語る
マーラーの大作 交響曲第7番
『夜の歌』の魅力

スペシャルインタビュー

ジャズピアニスト 小曽根 真

注目公演

演劇公演 いびしない愛

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

10/19

リリックホール シアター
開場／13:30
開演／14:00

演劇公演

いびしない愛

作：竹田モモコ
演出：マキノノゾミ

全席指定 3,000円 U-25 1,000円 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認のできるものをお持ちください

タイトルにある「いびしない」は高知県西部の方言(幡多弁)で「汚れている」「見苦しい」という意味があります。この物語は、その言葉に象徴されるように、汚れきった「ふし(節)工場」を舞台に、コロナ禍で経営に行き詰まる主人公・喜美子(南沢奈央)とその姉・しおり(東風万智子)、そして、クセのある登場人物らの泥臭い人間模様が描かれています。

脚本は、人気劇作家・竹田モモコが第26回劇作家協会新人戯曲賞(2022年)を受賞した作品。そして、演出は演劇界の鬼才・マキノノゾミが手掛け、キャストには、物語の本質を十二分に引き出してくれる実力派俳優陣が揃いました。人間の可笑しさと愛情をジワリと伝えてくれるこの話題作をお見逃しなく!

作：竹田モモコ

本作品の舞台である高知県西部の出身。郷里の言葉である「いびしない」を、「あまり人にはみせたくないような汚さ」というニュアンスで使用したのだそうです。



演出：マキノノゾミ

劇作家・演出家として数々の名作を生み出し、令和3年度第72回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞、さらに令和4年秋の紫綬褒章を受章と、その功績が高く評価されています。



出演者



南沢 奈央
〔富田喜美子(次女)〕



東風 万智子
〔富田しおり(長女)〕



佐藤 祐基
〔諫山圭吾〕



内藤 裕志
〔坂元照信〕



神戸 浩
〔吉田喜八郎(ヨロ)〕

幡多弁が独特な言葉なので、文字面だけ見ると高知の女性って相当強そうだな、と思いながら台本を読みました。ストーリーの始まり方からぐっと話に引き込まれ、そして、空き巣の男(諫山)とのやりとりがどこことなくズレていて、これから一体何が始まるんだろう…っていう見事な展開にドキドキしました。姉・しおり役の東風万智子さんとは以前にドラマで一緒にすることがあります。ヴィジュアル撮影で久々にお会いしたのですが、二人で並んですぐに、姉妹っぽい雰囲気を作れたのでとても安心しました(笑)。ほかの出演者の方は今回が初めてなので、どうかよろしくお願いたします、という気持ちでおります。

これから皆さんと稽古を通じて、空気感などをしっかり作っていききたいと思います。そして、節工場の魚を燻す匂いまで客席に伝えられるように頑張ります!

〔表紙〕

9/4に開催された「狂言ワークショップ」の様子。市内小学校8校の5年生が参加しました。〈万作の会〉からプロの狂言師を講師に迎え、日本の伝統芸能を体験しました。

Lyric Colors vol.14
〈2024年9月25日発行〉

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6
TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>



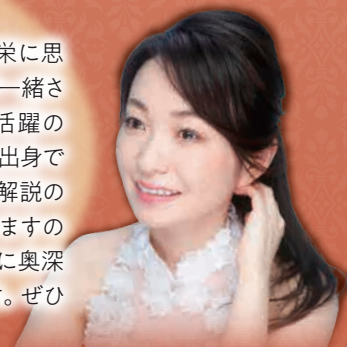
— 出演者からのメッセージ —

新潟県出身のスター歌手が
長岡リリックホールに集結!

ソプラノ

鈴木 愛美 長岡市出身

この長岡で、豪華ガラコンサートの出演が叶い光栄に思います! 歌手の皆さまとは新潟繋がりで以前から一緒にさせていただいており、いまや日本の第一線で活躍の方々ばかり。また、私は新国立劇場オペラ研修所出身ですが、本場の劇場付の新国立劇場合唱団、オペラ解説のスペシャリスト朝岡聡さんと共演させていただきますのを、今から楽しみにしております。オペラってこんなに奥深く面白いんだ! ときっと思っていただけだと思います。ぜひ皆さまのご来場をお待ちしております!



ナビゲーター

朝岡 聡

オペラの面白さや魅力を体験するには、生のコンサートにお越しいただくのが一番です。ステージに登場する歌手や合唱団の皆様の衣装、表情やステージでの動き…そう、オペラの歌は「聴く」のと同時に「見る」と、ずっと楽しく面白くなります。客席から見やすく、素晴らしい音響の長岡リリックホールは、それができる理想のステージ。人間が最初に使った楽器「声」で、人間が大好きな「恋愛」の気持ちと心の高ぶりを描くオペラ。その名曲アリアを体験すれば、人生はあっという間に豊かになりますよ!



バリトン

品田 広希 小千谷市出身

長岡リリックホールでの演奏は開館20周年記念事業オペラ「てかがみ」以来約8年ぶり、この素晴らしいホールで再び演奏できますこと嬉しく思っています。そして故郷の新潟で、日本の第一線で活躍している演奏家の方々と共演をさせていただくこと、大変光栄な事です。故郷の発展を祈り、今の自分にできるパフォーマンスを精一杯お届け致します。会場でお待ちしております!



ソプラノ

高橋 維 上越市出身

私の中で長岡市といえば、長岡リリックホール! というくらい、学生時代から新潟県音楽コンクールの予選やコンサート聴きに訪れていました。コンサートの帰りに寄った、リバーサイド千秋でのショッピングがとても楽しかったことも思い出します。そんな思い出がたくさんある長岡市ですが、実は歌手として活動するようになってから演奏するのは初めてなのです! 新潟県ゆかりの歌手の方々と一緒にできること、会場の皆様にお会いできることを心から楽しみにしております。



テノール

菅田 博昭 湯沢町出身

3年前の長岡でのコンサート以来の出演になります。前は声の調子が悪く不調でしたので、今回はリベンジさせていただきます!! 皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

特集 気軽にオペラ! 豪華にオペラ!!

傑作オペラの名曲を
あなたに…

新潟県出身で幅広く活躍しているスター歌手たちが、芸術の秋に相応しい名曲をお届けします。そして、公演のプロデュースとナビゲーターを務めるのはフリーアナウンサーである朝岡聡さんです。朝岡さんはアナウンサーでありながら、大のイタリア好き、オペラ好き! 全国各地でコンサートソムリエとして、オペラの魅力を伝えています。今回は、そんな朝岡さんから、オペラを楽しむポイントをわかりやすく教えていただきました。

朝岡 聡 (フリーアナウンサー/コンサート・ソムリエ)

横浜市生まれ。テレビ朝日アナウンサーとして「ニュースステーション」「はなキンデーランド」各種スポーツ中継などで活躍。フリーになってからはコンサート・ソムリエとしてTV・ラジオ・CMのほかにクラシック・コンサートの企画・構成・司会も手掛ける。深いテーマを軽妙な話術で進行する内容は、クラシックのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を得ている。日本ロッシェニ協会副会長 日本音楽教育文化振興会理事 東京藝術大学客員教授。



名作オペラを
親しみやすく
ご案内します

オペラは音楽と芝居で描く
「恋愛物語」

オペラは400年以上にわたって愛されてきた芸術です。なんだかとても難しいイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。音楽と芝居で描く「恋愛物語」、それがオペラです。芸術が好きですか? と問われたら「??」となりますが、恋をするのに興味がありますか? と質問されたら「全くありません」と答える人はいないはず。ほとんどすべての人間が大きな関心と興味がある恋愛がテーマのお話ですから、人は皆オペラが大好きになる…というのが私の意見です。そうは言っても外国語で歌われたり、物語のあらすじが分からないとストーリーも理解できないかもしれません。今度のコンサートでは、そのあたりを私が事前にお話ししたり説明しますので、オペラを初めて体験する方でも充分にお楽しみいただけます。

人に恋をしたり、憧れたり、喜んだり、悲しんだり…そんな気持ちの高ぶりがいるような歌で登場しますから、それぞれの歌を聴き比べる楽しみもありますよ。

歌は登場人物の「喜怒哀楽」

最初にお話したように、オペラは基本的に恋愛物語です。様々な場面が登場人物たちの恋の「喜怒哀楽」の気持ちを歌い上げる。その中でも恋の主人公はソプラノとテノールが担当することが多いのです。今回はソプラノの鈴木愛美さん(宝石の歌)と高橋維さん(慕わしき人の名)には、オペラ

のヒロインの恋の歌を披露していただきます。テノールの菅田博昭さんには、巨匠ヴェルディの名アリア2曲を歌っていただきます。最高の楽器である声、とりわけテノールの持つ圧倒的輝きと英雄的迫力を堪能していただけるはず(女心の歌)「見よ、恐ろしい炎を」。さらにオペラの恋物語が展開するうえで欠かせない重要な役柄を担うのがバリトン。恋の邪魔をしたり恋敵の役も多いのですが、そんなバリトンの名アリア(闘牛士の歌)を披露してもらいます。また、声の重なりである合唱もオペラにとっては欠かせぬ要素。その魅力を新国立劇場合唱団と長岡少年少女合唱団の演奏で味わっていただきます。

コンサートソムリエについて

コンサートのプログラムをレストランのメニューと考えるとわかりやすいと思います。お客様が召し上がる前に知っておくと、食べたときに「やっぱり、美味しい!」と感じていただけるようにコンサートの各プログラムを御案内するようにしています。お客様が心から演奏を楽しんでいただけるように、言葉と表現を駆使するのがポイントですね。

一番目立って注目していただきたいのは演奏するアーティストの皆様、その演奏をどうやったら「なるほど!」という感動に結び付けられるか、工夫するのが私の仕事です。例えば今回は、舞台の背景に演奏プログラムに関連する写真や絵を映して、広がりのある楽しみ方ができるようにします。また喋るスピードやインタビュや視線など、総合的に駆使して舞台の上から客席に接しています。

気軽にオペラ! 豪華にオペラ!! 傑作オペラの名曲をあなたに…

11/10 日 開場 13:30 開演 14:00
長岡リリックホール・コンサートホール
全席指定 一般:4,000円 U-25 1,500円

[出演] 鈴木愛美(ソプラノ) 高橋維(ソプラノ)
菅田博昭(テノール) 品田広希(バリトン)
石野真穂(ピアノ) 平野桂子(合唱指揮)
新国立劇場合唱団・長岡少年少女合唱団(合唱) 朝岡聡(ナビゲーター)

[曲目] グノー:『ファウスト』より「宝石の歌」/鈴木愛美
オッフェンバック:『ホフマン』より「生垣に小鳥たちが」/高橋維
ヴェルディ:『リゴレット』より「女心の歌」/菅田博昭
ビゼー:『カルメン』より「第1幕」兵隊さんと一緒に」/長岡少年少女合唱団
「闘牛士の歌」/品田広希、新国立劇場合唱団

ほか

※未就学児入場不可 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認のできるものをお持ちください

長岡の みなさまへ――



マーラーは今や非常に人気のある作曲家で、彼の交響曲はベートーヴェンの交響曲と同じくらい頻繁に演奏されると言って過言ではありません。しかし、その中でも第7番はおそらく一般の人々にはあまり知られておらず、好まれていないかもしれません。私はその理由がよくわかりません。というのも、私自身はこの交響曲に初めて出会った瞬間から、その独自性と独創性に惚れ込んでしまったからです。この第7番には、マーラーの特徴がすべて詰まっていると思います。素晴らしいオーケストレーション、ドラマティックな物語性、グロテスクな効果、ロマンチズム、叙情的なメロデー、そして大衆を魅了する興奮。構造が少し型破りで、最初は全体を理解するのが難しいかもしれませんが、最終的にはその音楽の美しさは皆の心にも届くと確信しています。この名作を、愛する東京フィルハーモニー交響楽団と長岡の観客の皆様と分かち合えること、大変嬉しく思います！

特集 若き巨匠 アンドレア・バッティストーニが語る

マーラーの大作『夜の歌』の魅力 交響曲第7番

マーラーの交響曲の中では演奏機会が極めて少ないながら『夜の歌』の愛称でも親しまれる第7番。マーラー屈指の大作であり、難曲としても知られています。また、マーラー自身がこの作品について多くを語らなかったため、多様な解釈の余地のあるミステリアスで魅力的な作品として、多くのクラシックファンに愛されています。

この秋、若き巨匠アンドレア・バッティストーニが率いる東京フィルハーモニー交響楽団が、なんと東京と長岡のみでこの大作を演奏します。今回は、バッティストーニがかねてより演奏を熱望していたというこの作品の聴きどころや楽しみ方に迫ります。

東京フィルハーモニー交響楽団
インタビュー記事(聞き手:八木宏之)より再構成

バッティストーニが教える！

〈マーラー〉そして〈交響曲第7番〉

マーラーとの出会い

私が子どもの頃、私たち家族は毎年クリスマス休暇をオーストリアとの国境に近いトブラッハ(北イタリア)で過ごしました。そこにはマーラーの晩年の作曲小屋があつて、ここで交響曲『大地の歌』と第9番が作曲されました。少年時代の私にとってマーラーは、毎朝朝食を買いに行くパン屋の前にある銅像の人物でした。私と弟はこの銅像の周りでよく遊んでいましたね。ある日私は、『メガネをかけてマントを羽織っている、この魔法使いみたいな人物は誰なのか』と母に質問してみました。すると母は『これはグスタフ・マーラーという高名な作曲家の銅像だ』と教えてくれたんです。

私がマーラーの作品に最初に触れたのは、10代のとき。エリアフ・インバルとフランクフルト放送交響楽団による交響曲第1番の録音でした。初めて聴いたときには、冒頭の弦楽器の不思議な響きに魅了されたのを覚えています。

交響曲第7番について
「使用される楽器が特徴的」

第1楽章で活躍するテノールホルンや第4楽章で使われるギターやマンドリンは普段オーケストラでは使われない楽器です。マーラーは音に対する感受性が研ぎ澄まされた人だったので、オーケストラで普段使われる楽器でなくても、自らの表現に必要であれば用いたのでしょう。

「とても物語的な作品」

私はこの交響曲をとっても物語的な作品だと思っています。とりわけ〈夜曲〉とタイトルが付けられたふたつの楽章(第2楽章・第4楽章)は、ロマン派の文学、例えばE.T.A.ホフマンの小説の世界を想起させます。暗闇が美しいものとして完全に受け入れられていて、第1楽章にはいくらか暗闇に抗うような部分も聴かれますが、第2楽章から第4楽章では暗闇は魅惑的なものとして描かれています。ウィレム・メンゲルベルクは、第2楽章をレンブラントの『夜警』(アムステルダム国立美術館蔵)のような音楽だと述べましたが、これは素晴らしいと思います。第3楽章にはファンタスマゴリアのシヨのような幻想的で魅惑的な世界が広がっています。もうひとつの〈夜曲〉である第4楽章では、ギターやマンドリンによってセレナーデが奏でられますが、そこにあるのは交響曲第5番のアーダージェットのようなエロティックな愛ではなく、もう少し距離のある冷静さを持った愛なのです。第5楽章では唐突に夜の世界から昼の世界へと転じます。このフィナーレだけは、『夜の歌』ではなく『朝の歌』と呼ぶべきかもしれません(笑)。私にとって第5楽章は、チロル地方のトブラッハのような街の日曜日の朝のイメージです。教会の鐘の音も聞こえてきます。しかし、その明るさは次第に狂気を帯びた喜びへと発展し、デュオ・ニユソ的なクライマックスへと突き進んでいきます。その終わり方は、空高く舞い上がった鷹が突然落下するような、あるいはマジシャンが自分の下に敷いてあるカーペットを急に抜いてしまったかのような、ショッキングなイメージを感じています。

バッティストーニさんに 質問してみました！

Q. 指揮者をめざしたきっかけは？

私が指揮の魅力に目覚めたのは、音楽院のオーケストラでチェロを弾き始めた10代の頃でした。指揮という仕事はとても魅力的に映りました。楽器の練習は必要なく、スコアと音楽に集中し、これらの名作の本質を理解し、それを音楽家や聴衆に伝えるのですから。オーケストラの音、色彩、表現の可能性に魅了されました。

Q. 音楽以外に好きなことは？

スコアの勉強や作曲以外では、読書をよくします。旅行の際も読みたい本を詰めたスーツケースをいつも持ち歩いています。(デジタル書籍は使いません!)。少なくとも数冊の小説、インスピレーションを与えてくれるアーティストの伝記、音楽や哲学、人類学に関するエッセイをいつも持ち歩いています。

Q. 日本の好きなおとこ

日本とイタリアは、美しいものや美味しい食べ物、芸術や詩、自然、史跡を愛する点で共通しています。だからこそ、私はこの国にいて本当に自分の国にいるように感じますし、文化の違いよりも共通点の方がたくさん見つかるのです。

Q. 尊敬している人物は？

私の書斎には、最大の影響を与えたシェイクスピアとベートーヴェンの胸像が置いています。



Profile アンドレア・バッティストーニ
(東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者)

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2014年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。数多くのオペラや管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。

東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会

マーラー作曲 交響曲第7番『夜の歌』ホ短調

11/24日

開場 13:15

開演 14:00

公演時間:約80分(休憩なし)

長岡市立劇場・大ホール

全席指定 S席:5,000円 A席:3,000円 ※未就学児入場不可



小曽根さんが語る No Name Horses

バンド名は「オーナーにも縛られない名もなきサラブレッドたち」という意味を含めています。中川英二郎、エリック・ミヤシロは、自身のリーダーバンドや企画で全国を飛び回って大活躍ですし、ブラスバンド界でも憧れの名プレイヤーですよね。そこに今回は若手3人が参加して、世代を超えてのケミストリーが生まれることでしょう。メンバー全員が新鮮な刺激を与え合って、今までにないプレイが15人全員から引き出されると確信しています！



©YOSUKE SUZUKI

Band Member



ピアノ
小曽根 真

3年前にソロコンサートで長岡リリックホールに来ました。まず建物の中に入っていきただけで高揚したのをよく覚えています。ホールの響きもとても自然で、演奏していても自分が弾いているのを忘れてしまうほど心地よい音に包まれ、こんな素敵なホールが地元にある皆さんを羨ましく思っています。そして、今回は開館から50年以上の歴史を持つ長岡市立劇場に伺えることをとても嬉しく感じています。「最高の音楽」、「最高の愛」を客席の皆さんに届けられるように、舞台の上で思いっきり弾けたいと思っています。皆様のお越しをお待ちしております！

小曽根 真

Profile

1983年パークリー音大を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、全世界デビュー。2003年グラミー賞ノミネート。チック・コリア、ゲイリー・バートンなど世界的なプレイヤーとの共演や、ビッグ・バンドの活動など、ジャズの最前線で活躍。また、NYフィル、サンフランシスコ響など国内外のオーケストラとも共演を重ねる。2021年には還暦を迎え、「OZONE60」と題したプロジェクトを、全国都道府県に展開。近年は「From OZONE till Dawn」と題した若手音楽家のプロジェクトにも取り組み、ピアノトリオ TRiNFiNITYを結成。平成30年度紫綬褒章受章。



トランペット
エリック・ミヤシロ



トランペット
奥村 晶



トランペット
松井 秀太郎



トランペット
岡崎 好朗



トロンプーン
中川 英二郎



トロンプーン
マーシャル・ジルクス



トロンプーン(B)
山城 純子



サククス(Alt)
岡崎 正典



サククス(Alt)
池田 篤



サククス(Ten)
三木 俊雄



サククス(Ten)
陸 悠



サククス(B)
岩持 芳宏



ベース
小川 晋平



ドラムス
高橋 信之介

小曽根 真 ©Matsuki Kohei / 岡崎 好朗 ©Ryota Mori / 松井 秀太郎 小川 晋平 ©Leslie Kee / 他 ©Shumpei Ohsugi(陸、ジルクス以外)

Makoto Ozono NO NAME HORSES 20年目の the Day 1

チケット一般発売日 10/25(金) 9:00~

※発売初日はインターネット・電話予約のみ

リリックm.c.優先予約

10/24(木) 10:00~18:00

※インターネット・電話予約のみ

2025

1/13 月祝

長岡市立劇場・大ホール

全席指定 6,000円 U-25 3,000円

※未就学児入場不可

※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認のできるものをお持ちください

小曽根 真 スペシャルインタビュー

世界的ジャズピアニスト小曽根真が率いる最強ビッグ・バンドによる全国ツアー「Makoto Ozono No Name Horses ~20年目のthe DAY 1~」の長岡開催が決定しました！総勢15名のメンバーは、いずれも自身のバンドでリーダーを務める大物ジャズ・ミュージシャンばかり。尽きない創造性と遊び心で、他に類を見ないビッグ・バンドに成長し、日本のみならず海外でも公演を展開してきました。

今年、結成20周年に新メンバーを迎え、更なる新境地へ臨むこのツアーへの意気込みを、小曽根さんにお聞きしました。

©YOSUKE SUZUKI

——《No Name Horses》を結成したきっかけや、20周年を迎えた想いをお聞かせください
小曽根 真さん(以下、小曽根)／ジャズシンガーの伊藤君子さんのレコーディングのために集まったのがきっかけでした。海外のビッグバンドのサウンドや響きを知っているメンバーが集まったので、全体のエネルギーとサウンドがあまりにも素晴らしかったんです。伊藤さんのアルバムリリースのタイミングでツアーをやって、連日盛り上がっていたら、誰からともなくバンドだけで1枚CDを出さない？となって、精鋭15人が集結した《No Name Horses》が誕生しました。
それから20年という年月が経ちましたが、やっぱり僕はストリートなジャズを演奏することが大好きなミュージシャンなんだとしみじみ感じています。「原点に帰る」という響きが硬いけれど、自分たちがジャズに魅了されて「この音楽をやりたい」と初めに思った、あの「スイングするワクワク感」を、もう一度みんなと一緒に実感したいと思っています。そして、それと同じくらい大切なのが「ブルース」。音楽的なことではなく、生きているからこそ感じる、あのブルーな感覚はジャズにはなくてはならないもの。このバンドはどんな曲をやってもそれがあふれる。そこをもう一度しっかり感じて抱きしめて行きたいです。

——ジャズ、そしてビッグバンドについて教えてください
小曽根／「ビッグバンド」というスタイルで奏

——小曽根さんご自身の活動で大切にしていることは何ですか？

小曽根／もちろん「良い音楽」を創りたいです。そして、僕らの演奏を聴いた後に「元気になった！」「落ち込んでいたのに、それも忘れてた」とか、「明日からまた頑張れる」なんて、お客様から言っていたくほど嬉しいことはないです。

このジャズの自由さは、皆さんが毎日一生懸命に生きている人生と全く同じ。次の瞬間、何が起こるか分からない。その瞬間瞬間、必死に頑張つて次の空間へと物語を紡いで行く。それを客席にいる皆さんに届けることで、皆さんが理由もなく笑ったり、涙が出たり。そんな二度とやってこないミラクルのような大切な時間とエネルギーを共有できたら最高に幸せです。

でられるジャズは、もともとがダンスミュージックだったということを忘れてはならないポイントです。なぜなら、ジャズを演奏する上で最も大切な要素がリズムなので。そのダンスミュージックがどんどん進化して、踊る音楽から聴く音楽に変化し、今のジャズに辿り着きます。また、ビッグバンドはクラシック同様、バンドリーダーが作・編曲を手がけるのが主流でした。近年は演奏をしない作曲家がリーダーとなるバンドも増えています…が僕は、作曲も演奏もします。この数年スイングを求める方向に気持ち動いているので、そこにフォーカスを当てたパフォーマンスをしたいと強く思っています。